

イチゴの茎頂培養における培地の種類と芽の殺菌法が生育におよぼす影響

佐藤義機

イチゴの茎頂培養の実用化をはかるため,1970 年 6 月に,品種宝交早生を供試し,培地の種類ならびに培養用芽の殺菌法について検討した。

HOLLEY&BAKER 培地では,芽の生存率および萌芽・発根率は高かったが,カルスの形成がいちじるしいため,芽の発育が阻害された。これにくらべて,WHITE 培地では芽の生存率は多少低かったが;カルスの形成はなく,芽の発育がよく,イチゴの茎頂培養に適していた。なお培養用芽の殺菌は,よく水洗いをしたあと,ウイルソン液単独で 10 分間表面殺菌する方法がもっともよかった。